

(別紙 12)

新潟県におけるクマ類の保護・管理に係る専門人材の育成に係る評価報告

1 クマ類の保護・管理に係る専門人材や認定鳥獣捕獲等事業者等の現状や課題等

狩猟者等の減少や高齢化などにより、ツキノワグマの捕獲従事者が減少し、持続的な捕獲体制を維持することが困難な状況が想定される。また、ツキノワグマの生息域拡大を踏まえると、今後はツキノワグマの捕獲を行ったことがない狩猟者等が、捕獲等にあたる可能性も考えられ、捕獲従事者の育成や捕獲技術の向上が必要。

2 1の課題等に対応するための取組内容

実施時期	令和7年2月1日及び2日(2回)
場所	新潟県猟友会ライフル射撃場
目的	ツキノワグマの捕獲従事者の育成や捕獲技術の向上
対象者・講師 (人数も記載)	<b>【対象者】</b> 以下の①～④の要件を満たす者で、参加者数は、2月1日21名、2日19名。 ①新潟県内に居住している者 ②第一種銃猟免許取得から10年以内程度の者 ③散弾銃またはライフル銃(ハーフライフル銃を含む)を所持している者 ④令和6年度に新潟県において鳥獣保護管理法に基づく第一種銃猟狩猟者登録を行っている者(対人物傷害保険加入者) <b>【講師】</b> (一社)新潟県猟友会(ベテランハンター)等
内容	<b>【座学】</b> ・クマ類による被害防止に向けた対策方針 ・人身被害防止対策と取組について ・新世代クマについて(ツキノワグマの生態等) 等 <b>【実践】</b> ・箱わな(ドラム缶)の設置説明実践 ・射撃指導員による実射研修 <b>【その他】</b> ・指導員講評、質疑応答、アンケート記入
方法	委託により実施
評価方法	研修会後のアンケート等により本研修会の効果を評価 (アンケート回収率 77.5%)
事業費	1,999,800円
備考	

注：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。なお、「目的」には育成したい人材像も記入し、「評価方法」には目的や育成したい人材像に対する事業内容の適切性の検証方法や事業効果の測定方法を記入すること。

### 3 2の取組に対する評価と今後の課題等（事業終了後の評価報告時のみ）

#### <取組に対する評価>

- ・アンケート結果から、今後の捕獲等の担い手となる狩猟者やツキノワグマの捕獲を行ったことがない狩猟者など本事業で想定した対象者に対して研修を行うことができ、また、研修内容は捕獲技術や射撃技能の向上に向けて概ね適切であったと考えられる。

#### アンケート結果

##### 【研修参加者】

- ・20～60歳代から参加があり、40歳代が約45%
- ・第一種銃猟免許を取得して概ね5年目以内が約77%
- ・銃によるツキノワグマの捕獲を試みたことがない者が70%  
(捕獲を試みたことがある者のうち、捕獲できなかった者が約半数)

##### 【研修内容】

- ・ツキノワグマの生態や捕獲手法の座学について「とても参考になった」「参考になった」と回答した者は約93%
- ・実射研修は「とても参考になった」「参考になった」と回答した者は100%
- ・研修を受講して「ツキノワグマの捕獲技術が向上したと思う」と回答した者は約72%、「どちらともいえない」と回答した者が約24%

##### 【その他】

- ・ツキノワグマ捕獲の担い手増加のための取組として「捕獲技術向上研修の回数を増やす」ことが最多

#### <今後の課題等>

- ・アンケート結果等を参考に、座学の資料をはじめとした研修内容の改善を進めるとともに、研修会開催時期の分散や回数の増加等により、対象者の研修会への参加機会を増やすことが重要である。

注1：1の課題及び2の各記載内容等も踏まえ、取組が適切に実施されたか、目的に対して効果があったか等の検証結果を具体的に記入すること。

注2：注1による効果検証を踏まえ、事業の設計（事業の質や内容）の妥当性や、事業の実施方法の適切性を評価し、課題と改善の方向性を記載すること。また、評価を通じ明らかになった専門人材や認定鳥獣捕獲等事業者等の育成の課題等についても記入すること。

### 4 その他

注：特記すべき事項があれば記入すること。